

令和4年10月13日

寒河江市議会議長 國井輝明様

会派名 日本共産党寒河江市議団

代表者名 太田陽子

### 調査研究・研修報告書

当会派は、調査研究・研修を行ったので、寒河江市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則第6条第2項の規定により報告します。

### 記

- 1 期 間 令和4年10月3日（月）10：00～12：00
- 2 調査研究・  
研修視察先 第56回市町村議会議員研修会  
（オンライン形式による受講）
- 3 参加者 太田陽子
- 4 経 過 「学校統廃合は子どもと地域の未来にとって有効な方法なのか」（講師：和光大学教授 山本由美氏）の講義をオンラインにより受講した。詳細は別紙のとおり。

様式第2号

<p>視察研修先</p>	<p>第56回市町村議員研修会</p>	<p>氏名</p>	<p>太田陽子</p>
<p>視察研修項目</p>	<p>学校統廃合は子どもと地域の未来にとって有効な方法なのか</p>		
<p>全国的に学校の統廃合は進められているが、現在は統廃合の件数が高止まりの状況にある。</p> <p>小中学校の統廃合は、本当に子どものためになるのか、また地域の活性化になるのかなど、学んだ。</p> <p>統廃合が進む地域は、さまざまな財政誘導があり、施設の複合化の多様に、自治体が適当に教育的根拠をつけている現状があり、公共施設再編で今まで積み上げられた教育条理を無視していることがある。</p> <p>全国で進められる統廃合は、地域の文化センターそして学校の特殊性を無視している。また、教育的根拠のない施設「複合化」に自治体は勝手に理由をつけている。大規模改修や耐震など行っているにも関わらず、老朽化などを理由にしているなど。</p> <p>他市の例として、PFI、PPPなど公教育の民営化が進み、タイムスケジュールありきで、保護者らと形式的ワークショップを開き、地域の意向を学校施設に反映することが難しくなっていることがあるということだった。地域の意向を学校施設に反映することが難しくなり、保護者、住民が担当部局による説明会を開催するように要求した事例もあるということだった。</p> <p>プールの民営化など、コロナによる水泳授業の中止もあり、20年間で、統廃合以外で全国で2000プールが減少しているということだった。</p> <p>国や県教育委員会が定める学級編成の基準は、あくまでも基準で、どういった学級編成にするかは、学校の設置主体である市町村の判断である。</p> <p>いかにも国や県の基準で決められていて、今後複式学級が増加していくことは避けられないとし、しかも複式学級になれば学力低下の恐れがあるなど、事実をねじ曲げ、保護者の不安をあおって学校統廃合を認めさせようというのは、あまりにも卑劣なやり方であり、複式学級が学力不足という教育上のエビデンスはない。</p> <p>複式学級の豊かな実践例もあり、学ぶべきことが多い。</p> <p>小規模特認校の可能性など、地域の学校を支える様々な特色ある活動が報告されている。</p> <p>全国で、学校統廃合の現状など、子どもにとってより良い学習環境を提示できるように、教育学的なエビデンスなど、今後も研修を積んでいきたい。</p>			